

一 般 質 問 通 告 書

令和7年第4回定例会 No. 1

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	質 問 の 相 手
1	遠 山 勝 也	1 硬度低減化施設建設計画について	(1) 本町はその水道事情により、水道料金とは別に飲み水の購入や軟水器の設置等、経済的負担を当たり前のように受け入れてきた町民にとって、飲み水の確保が出来る硬度低減化施設建設は大きな希望です。一方、建設のために水道料金が値上げされるかもしれないという大きな懸念もあります。そこで硬度低減化施設建設検討委員会を立上げ、水道事業への要望、硬度低減化の程度、水道料金値上げの許容範囲、災害時の供給対策要望等、町民からの意見や要望をアンケート等の実施により把握する体制が必要だと思いますが、見解を伺います。 (2) 硬度低減化施設建設については、奄美群島振興開発特別措置法第1条の規定により1/2の国庫補助があるとのことで、その確保に向けて本町の硬度低減化施設用地確保の現状や施設規模の計画、また国庫補助交付申請に向けての準備はどの程度か伺います。 (3) ここ数年無効水量(漏水)が10万m³を越えており、水道料金に換算すると毎年大きな額を浪費していることになります。その原因となっている老朽化した配水管路の更新にも1/2の国庫補助が適用されるとのことで、その補助を活用しスタッフを増やしてでも管路の更新を急ぐべきだと思いますが、見解を伺います。	町 長 町 長 町 長
2	高 田 豊 繁	1 町営認定こども園は、施設の老朽化とともに、今後の職員確保や労働環境の改善を図る上からも早急なる統合整備が求められるが今後の計画について	(1) 新規こども園については、施設本体とともに、グラウンド、駐車場、自然ふれあい空間整備も必要であり、それ相当の用地確保が必要と考えますが見解を伺います。 (2) 施設の場所については、検討委員会から標高が高くかつ島の中心位置で児童の安全等も確保される場所が望ましいとの意見のようですが見解を伺います。	町 長 町 長

一 般 質 問 通 告 書

令和7年第4回定例会 No. 2

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	質 問 の 相 手
			(3) 用地の取得から土地等に関する各種法手続きや基本計画から実施計画に至るまで2年程度は必要であり、なるべく用地を先行取得して計画的で合理的な事業計画が望まれますが見解を伺います。	町 長
		2 赤崎公園公衆トイレ建設整備について	(1) 赤崎公園公衆トイレは、築経過年数が進行し躯体や設備の老朽化対策と洋式化への整備建替が必要と考えますが見解を伺います。	町 長
		3 配食サービスの業務見直しについて	(1) 昨今の物価高騰や人件費上昇に見合った配食サービス内容の見直しが必要ではないかと考えますが見解を伺います。	町 長
		4 旧与論島観光ホテル解体整理について	(1) 現在途中で解体作業が停止されているようですが、環境面、周辺への影響や安全対策の面からも、事業主へ要請し適切な対応措置を求める必要があるのではないかと見解を伺います。	町 長
3	吉 田 勉	1 海の魚貝類等、資源を守る為のルールづくりと対策について	(1) 本町は、与論町漁業協同組合により、共同漁業権が設定されており、魚貝類や藻類の採捕が規制されているが、最近、組合員以外の方々や観光客の中にも、採捕目的での行為が多発しており、資源保護の観点から、全町民を含めたルールづくりやパンフレット等での観光客への周知を図る必要があると感じるが見解を伺います。	町 長
		2 希少動植物の保護や調査等、今後の対応について	(1) 様々な工事や伐採等により、島に自生する植物も減少傾向にある中、希少な植物（与論北限種、与論絶滅危惧種、南西諸島固有種、絶滅危惧種）等、断層を含む崖地や海岸周辺に散在して確認することができます。また、最近研究者の調査研究により、甲殻類を含む希少な生物も数多く発見されており、それらを保護するための情報収集や調査、保護条例等の整備が急務であると感じるが見解を伺います。	町 長

一 般 質 問 通 告 書

令和7年第4回定例会 No. 3

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	質 問 の 相 手
		3 町指定有形民俗文化財「与論島の生産・生活用具」の保存管理・活用について	(1) この指定文化財は、与論の歴史、文化、生活様式を理解するために欠くことのできないものであり、所有者と連携して定期的な現状把握と、周到な保存管理が必要不可欠と思われるが、現在の状況及び今後の管理体制について見解を伺います。 (2) この指定文化財は、民間の所有であるが件数が多いため、収納する倉庫等の維持管理に苦慮しており、現在も台風被害の修理が進まない状況であり、所有者の同意を得て、現在休館中の中央公民館に寄託的に収納し、現状把握や台帳整備を進めながら、町民への公開及び郷土学習等に活用する考えはないか伺います。	教 育 長 教 育 長
4	林 敏 治	1 水道水の供給対策	(1) 本町の古里浄水場は、地下水を浄水処理し水道水を供給しておりますが、以前から塩素と硬度の問題があり、飲み水としてあまり使用されていないと思われます。一方、家庭や飲食店においては給湯器、浄水器、軟水器などに石灰が詰まり、故障する等、日常生活に大きな支障をきたしております。今後、水道水を飲み水として供給できるよう、どう対策を講じていくのか、見解を伺います。	町 長
		2 水産業の振興対策	(1) 先日、よろんじま海の駅が誕生し、観光地域振興の拠点として認定されました。今後、水産物の消費拡大や地域の賑わいを創出する取組も期待されます。そこで、水産業を持続的産業として発展させるため、離島漁業再生支援交付金事業を活用して、魚介類の種苗放流や藻場造成を行い水産資源の保全を図りながら、陸上繁殖漁業の研究開発や試験養殖など新しい事業に取り組んでいく考えはないか。	町 長

一 般 質 問 通 告 書

令和7年第3回定例会 No. 4

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	質 問 の 相 手
5	大 田 英 勝	1 児童・生徒の不登校の現状と対策について	(1) 先日、県教育委員会の2024年度問題行動・不登校等調査結果の発表により、「県内不登校最多5676人」との新聞報道があった。これは7年連続で最多を更新中とのことであるが、本町の不登校の現状はどうなっているのか。また、教育委員会や学校では、不登校の改善のためどのような取組をしているのか。	教 育 長
		2 いじめの現状と対策について	(1) 県内のいじめ認知件数は820件増の11,486件と、過去3番目に多い県数だったという。そこで、本町におけるいじめの現状はどうなっているのか。また、いじめ解消のためにどのような取組を行っているのか。	教 育 長
6	池 田 理 恵	1 多様性を認め合い、誰もが主役になれる与論町の未来について	(1) 本町では、子どもの発達に関する相談が増えており、相談体制の分かりやすさや、学校・園・医療・福祉との連携の強化が求められています。また、特性の有無にかかわらず、すべての子どもが共に学べるインクルーシブな環境づくりも重要となっています。そこで、発達支援の相談体制の現状と、インクルーシブ教育を推進するための町の方針について伺います。 (2) 高齢化が進む本町では、高齢者が地域の中で役割を持ち、生きがいを感じながら活動できる場づくりも非常に重要です。そこで、高齢者の得意分野を活かした生きがい事業の新設・拡充、子ども・若者・観光客などとの世代間交流の促進、読み聞かせ・手仕事指導・観光案内など、高齢者の活躍の場づくりについて、町の考えを伺います。	教 育 長 町 長

一 般 質 問 通 告 書

令和7年第4回定例会 No. 5

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	質 問 の 相 手
			(3) 与論町には、子ども、子育て世帯、高齢者、移住者、障がいのある方など、多様な町民が暮らしています。この多様性は町の大きな強みである一方で、時代の変化により、町民同士のつながりや理解が希薄になりつつある状況も見られます。そこで、多様な背景を持つ町民がお互いを理解し認め合えるよう、町としてどのように多様性の視点を施策へ反映し、町民に広げていく取り組みを進めていくのか伺います。	町 長